

15 東京都 清瀬市

清瀬せせらぎ公園

水源	導水方法	導水箇所	水環境上の問題
地下水・湧水	新規管路 動力	河川・水路	親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



対象地域の概要

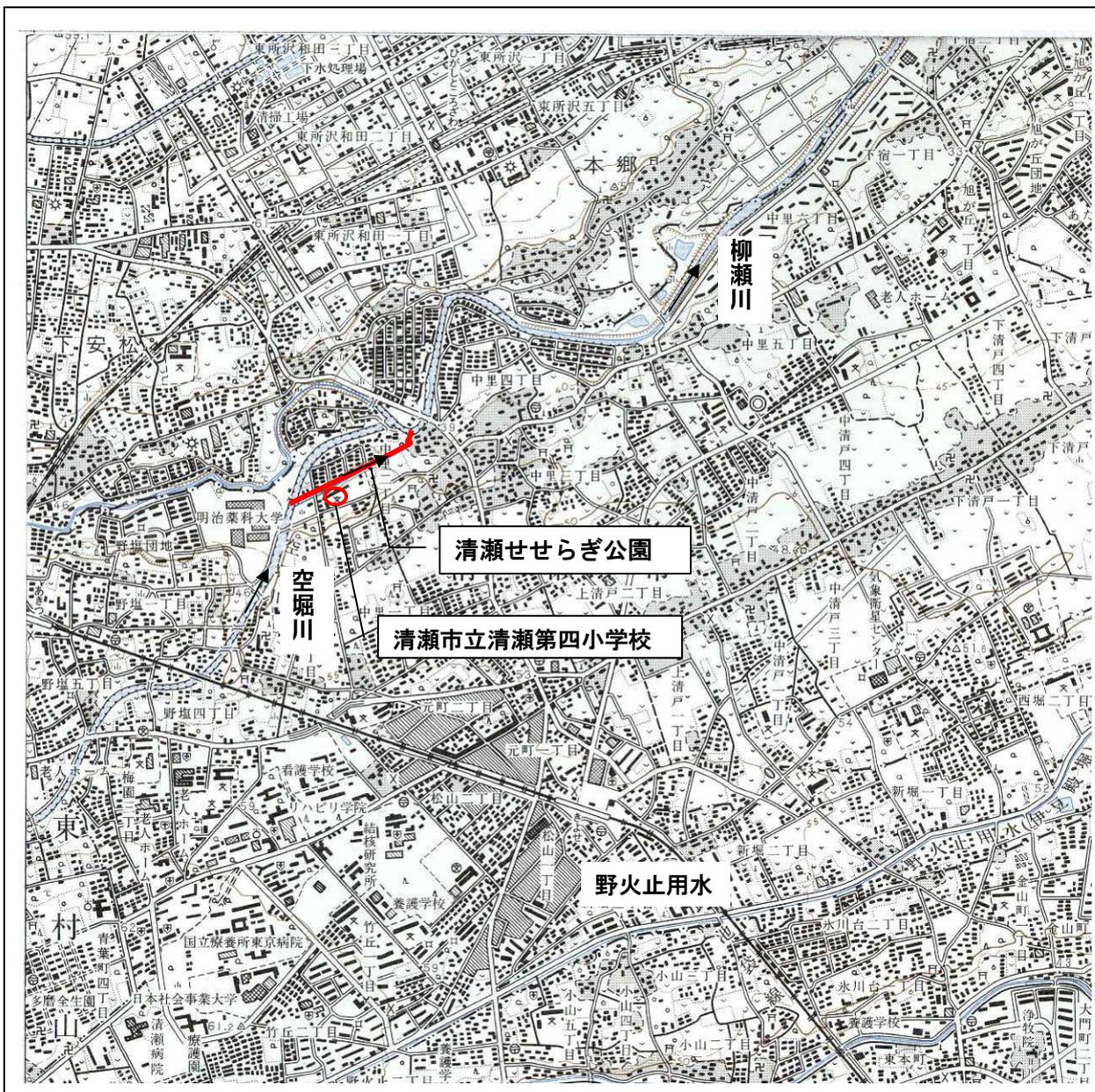
・地域の概要

この地域はいわゆる武蔵野の雑木林と畑地を中心とし農村地域でしたが、この30年程で急激な都市化がみられ、住宅地の増加により河川改修や畑地、雑木林の消失が著しくなりました。清瀬市域の中の柳瀬川や空堀川は、川幅の拡張等、河川改修が現在も上流域や支川等で行われていて、かつての風景が一変しています。また、柳瀬川沿川は沖積低地となっていて、崖線の斜面緑地が連なっていると同時に林、畑と新しい住宅が混在しています。

市は先に挙げた自然学習園づくりの一環として、都が整備した柳瀬川金山調整地（H6年完成）と金山緑地公園の整備、雑木林を主体とした中里緑地保全地域の指定（都が指定）、河川改修に伴う新たな残地の保全整備計画の推進（平成14年～17年）、柳瀬川回廊構想（平成17年～19年）等を策定中です。

・対象水域の概要

荒川水系空堀川は、東京都武蔵村山市に源を発し東流して柳瀬川に合流する一級水系です。この30年の間、空堀川は周辺の宅地化に伴い、洪水の多発や水質汚濁等に悩まされてきました。この河川改修は明治12年（1880年）～平成2年（1990年）代頃から始まり、柳瀬川合流域はショートカットされるとともに、川幅の拡大、川床の堀削等により様相は一変しました。改修によるショートカット部は約510mであり、改修残地として河川区域のまま残ることになりました。

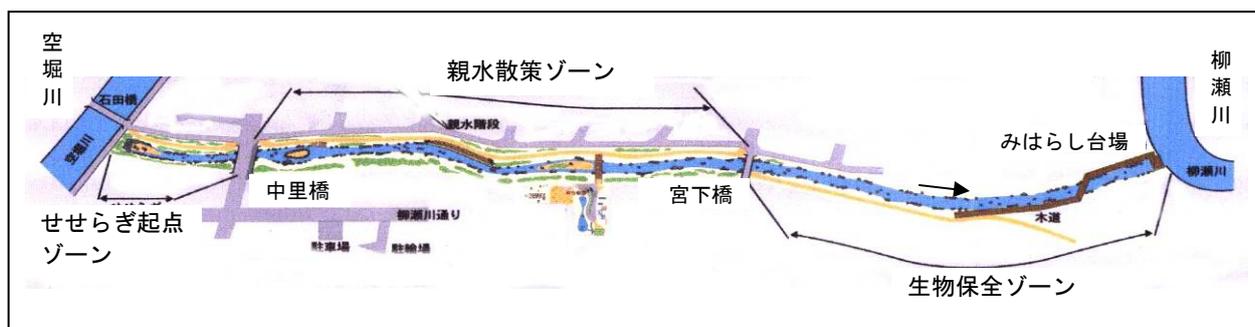


<p>対象地域の概要</p>	<p>清瀬市はこの河川敷を占用し、公園、緑地として活用することとし、事業費として昭和 63 年に全国の各自治体に交付された「ふるさと創生資金」を活用することとなりました。加えて旧河川敷地のデザインは市民公募により実施されることとなります。この公募で採択された案が「自然学習園」づくりで、旧河川敷地を含めた広域な地域を対象とした計画提案でした。そして、この空堀川のショートカット部は「清瀬市立清瀬せせらぎ公園」（名称は平成 11 年公募で決定）として整備されることとなりました。この整備計画づくりでは、「空堀川自然学習園整備計画素案を考える市民懇談会」を結成し、素案づくりを行い、平成 11 年に工事着手、同 12 年 9 月にオープンしました。</p> <p>・水環境上の問題：水質悪化・悪臭、生態系悪影響、親水性・景観</p>
<p>導水事業の概要</p>	<p>・導水開始 平成 12 年 9 月 2 日開園（平成 10 年度から工事）</p> <p>・水源 [水源] 地下水 [他の水源] 他に特に想定されている水源は無い。</p>

導水事業の概要	<p>・ 導水量 せせらぎ用 50Φ 深さ 70m 30 m³/day (平成 13 年 3 月以降は 10 m³/day に変更) 緊急用 25Φ 深さ 40m 受水槽容量 40 m³</p> <p>・ 導水方法 現在のせせらぎ水路は、専用井戸から取水する地下水を水源としています。 せせらぎの水は、受水槽から上流まで圧送し、石垣から放流しています。そして、中間地点で半分を循環し、半分は下流へ放流する循環方式をとっています。循環は竹炭によるろ過を行い放流しています。</p> <p>・ 施設諸元 延長 : 約 510m 面積 : 約 7,200 m² せせらぎ幅 : 最大 2.3m 最小 0.3m 平均 1.3m せせらぎ深度 : 最大 20cm 最小 5cm</p> <p>・ 費用 [費用] <初期費用>262,500 千円 <維持費用>3,380 千円/年 (H16 年度実績) [内訳] <初期費用> — <維持費用> 清掃等 : 100,000 円/年 委託 : 1,500,000 円/年 (管理人常駐) ポンプ管理 : 180,000 円/年 電気代 : 1,600,000 円/年 (内訳: 電灯代 60 万円、動力代 100 万円) 計 : 3,380,000 円/年 (平成 16 年度実績) [負担主体] <初期費用>— <維持費用>—</p> <p>・ 効果 [事業全体] ・ ゾーン区分は上流端からそれぞれ、せせらぎ起点ゾーン、親水散策ゾーン、生態保全ゾーンに分けられています。生態保全ゾーンではゲンジボタルの養殖が行われ、昨夏で 30~40 頭が出ました。</p>	
	NPO の協働	協働の背景
	成功要因	<p>・ 計画づくりの段階から懇談会等による住民参加方式を採ったこと</p> <p>・ 参加住民のノウハウ、行動力を尊重し、計画、工事に活かしたこと</p> <p>・ 環境 NGO、自治会、学校の先生等を尊重した多様な立場の参加と自主性</p>

<p>役割分担</p>	<p>・ 工事にあたって、「清瀬の自然を守る会」等による、植栽や植生管理、ホタルの飼育と放流、水路清掃等がボランティアで行なわれました。</p> <p>・ 現在は地域住民、学校、ボランティアによる公園の利活用が行われています。</p> <p>・ 年間の主なイベントは、川や水路及び周辺の雑木林を利用して、以下のようなものになっています。</p> <p>1月 ドンド焼き（小学校校庭）</p> <p>2月 バードウォッチング</p> <p>3～4月 カタクリまつり（市主催）</p> <p>5・11月 植物・昆虫観察会</p> <p>夏季 川遊び</p> <p>12月 凧揚げ大会</p> <p>・ 活動資金については、せせらぎ水路での植生、ホタル等の生物相、利活用に関する活動、全てに市は費用等の負担は行わず、市民は完全にボランティアとして参加しています。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>水路のみならず周辺の樹林地を取り込んだ一体的学習園づくりで、活動の幅、メニューが広がっています。この事をきっかけとし、現在河川改修中の残地の扱いも続けて懇談会方式で協議することになりました。</p>
<p>リ及び資料 ンギヒ グヒ 先ア 提供</p>	<p>清瀬市建設部緑と公園課：042-492-5111(代表)</p>
<p>参考 工 寺</p>	<p>清瀬市建設部緑と公園課：HP http://www.city.kiyose.tokyo.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AC020000&Cc=7d5818093510278</p>

資料：清瀬市建設部 緑と公園課「清瀬市立 清瀬せせらぎ公園パンフレット」（一部）



清瀬市立 清瀬せせら公園 ゾーニング



清瀬せせらぎ公園 生態保全ゾーンと雑木林



清瀬せせらぎ公園 上流区域（起点ゾーン）



清瀬せせらぎ公園 親水散策ゾーンと管理棟



上流起点ゾーンの循環水吐出口



中流親水散策ゾーンとの循環水吐出口



下流部生態保全ゾーンのホテル養殖地



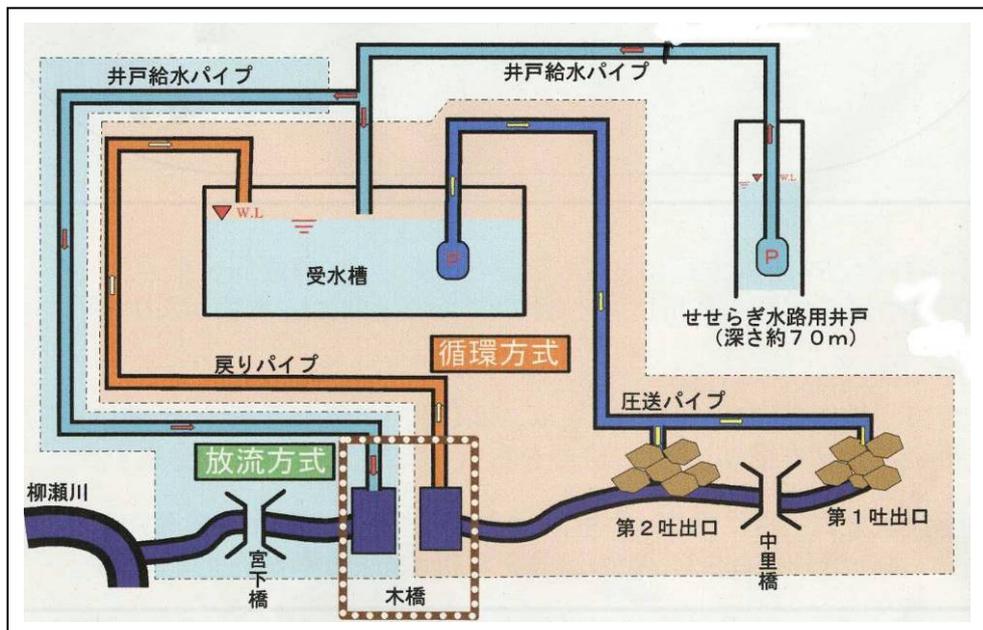
管理棟



地下水汲み上げ池



中間地点の水循環取入れ口



せせらぎの仕組み図

資料：清瀬市建設部 緑と公園課「清瀬市立 清瀬せせらぎ公園パンフレット」

(活動写真)



空堀川せせらぎ探検隊 活動の様子



空堀川せせらぎ探検隊 川遊びの様子



写真上及び左：清瀬第四小学校の空堀川での研究活動

以上活動写真（5点）提供
：清瀬市立清瀬第四小学校